

## 令和4年度第2回池田市行財政改革推進委員会 議事要旨

【と き】 令和4年9月27日（火） 午後2時00分～午後3時00分

【ところ】 池田市役所 3階 議会会議室

【出席者】

■委員：中川会長、村瀬副会長、福井委員、真崎委員、荒木委員、村上委員、牛嶋委員

■事務局：水越総合政策部長、塩川総務部長、森本総合政策部次長兼財政課長、松永人事課長、檜垣行財政改革推進課長、行財政改革推進課富永主幹、行財政改革推進課奥田主任主事、行財政改革推進課阪上主事

【傍聴者】 0名

【内 容】

### 1) 開会

＝事務局から配付資料の確認＝

### 2) 議事

案件1：令和3年度における池田市行財政改革推進プランⅢの取組状況に関する意見書（案）について

＝事務局から報告書の変更点、意見書（案）について説明＝

＝質疑応答（抄録）＝

委員：意見書（案）の（2）の働き方改革の記載について、「PDCA サイクルを確立するような取組も必要である」とあるが、現状としてそのような取組が全く無い前提のように見える。しかしながら、実際は人事評価制度等で一定のPDCA サイクルはあるのではないかと思っており、ゼロではないのであれば、この表現で良いものかを感じる。今やっていないから、これからPDCA サイクルを構築していきますというような、そこまで低姿勢でなくてもいいのではないかと思う。今後もさらなる改善に取り組んでいきたい等の表現でも良いのではないだろうか。

事務局：人事評価制度がPDCA サイクルそのものというわけではないが、評価に至る過程の1つに職員間の面談を義務付けており、対話の中にPDCA サイクルの要素があるといえはる。したがって、ゼロから構築するというわけではないと考えている。

委員：意見書（案）の働き方改革におけるPDCA サイクルの確立については、私が提案させ

ていただいたところだが、報告書のP15に予算におけるPDCAサイクルの記載があり、その部分を活用させていただいた。予算におけるPDCAサイクルについては、当然通常は回っているものと考えている。また個人の人事育成においても、確かにPDCAサイクルは回っているだろうと思うが、組織改善においては、多くの組織において回せていない現状がある。以上のようなことを踏まえ、提案させていただいたところである。

会長：委員からのPDCAサイクルについての指摘は、そこまで謙虚にならなくてもよいのではないかと、という趣旨であったので、今後もより推進していくという意味では、むしろこのまま残しておいた方がよいのではないかと感じる。この部分については、修正無しでよろしいだろうか。

(異議なし)

会長：他に何かご指摘や意見等はあるか。

(異議なし)

会長：それでは、委員の皆様からの了承をいただけたので、意見書(案)からの修正は無しとし、意見書として確定させていただく。

会長：せっかくの機会であるため、お一人ずつ、これまでの振り返りや今後に向けてなど、何かご意見等を頂戴できればと思う。

委員：報告書については、個別の取組状況が縦型に変更されていて見やすくなったと感じている。このような細かなことであっても、積み重ねることで見やすい報告書に繋がると思うので、今後も改善を続けてほしい。また、年次休暇については、私の所属する企業においても、取得の推進は苦労しているところであるが、本人の意思を無視して無理やり取得させるのではなく、本人の意向も尊重しながら進めていく必要があると考えている。

委員：短期間の間に、前回の委員会からの指摘等が反映されており、よりわかりやすい報告書になったと感じている。年次休暇の取得状況については、府内の市町村平均を超えることができれば良いと思う。

委員：他の委員も言われたように、報告書の個別取組状況が縦型に変更されたことや、文

字が大きくなったことで、とても見やすくなったと感じた。

委員：今後、労働力が減る中で、人への投資は企業でも自治体でも重要課題であると考えている。一定の費用をかけて人へ投資しながら、より踏み込んだ取り組みを行っていただきたいと思う。

委員：委員の皆様も言われたように、報告書が縦型になったことでとても見やすくなった。また、今回、達成状況の評価基準を全体的に統一していただいた一方、修正を求めものではないが、P18の「市有財産の活用と未利用土地等の売却」について、気になった部分がある。目標が「活用または売却可能な物件が出れば、随時処理していく。」に対して、実績が「現在のところ、活用や売却が可能な物件がないため実績なし。」であり、達成状況においては未達成となっているが、対象の物件が出なかったのであれば仕方ないのではないだろうかと感じる。この取組についても、新型コロナウイルス感染症の影響により取組が中止になった場合と同様の基準で、達成状況を統一しても良いのではないだろうかと思う。加えて、出れば処理していくというような目標設定でそもそも良かったのか、また、活用が可能な市有財産は沢山あると思うが、本当にそのような物件が出なかったのかということも気になっており、この取組については今後も注目していきたいと思っている。

副会長：先ほど委員の皆様が言われたことでもあるが、前回の委員会から短期間にも関わらず、各委員の意見が取り入れられており、大変良い報告書と意見書になったと思う。また、今年度がプランⅢの最終年度ということで、次期行財政改革の計画等を今後立案されると思うが、例えば、最近よく世間で言われているSDGsと関連させたものにするなど、今までのマイナーチェンジというよりも大きく変わったものになればいいなと期待している。

会長：行財政改革はコストダウン一辺倒になることが多く、そのような減量経営を第一次原始的な改革と捉えている。第二次改革については、同じコストでさらなる生産性向上を図るようなパフォーマンスアップの改革であると考えており、その方向性への転身をそろそろ検討した方がよいと考えている。そのバロメーターが、先ほど委員よりご指摘のあった休暇取得や時間外勤務状況のデータに現れると考えており、人を大事にするという、これまでの価値観からの大きな転換が必要である。職員をもっといたわり大事にすることが、パフォーマンス向上やコストを下げることに繋がるということを打ち出すことが次の改革かもしれない。私は以前、自治体の人事委員をしていたことがあり、そこでは、過剰なチェックなどのいきすぎた内部規律は意思疎通コストを跳ね上げることが分かった。それに対して、信頼することや権限

を委ねる、任せるなどの関係性は事実上の行政政策の分権化であり、報告・連絡・相談ができるだけ減るような信頼関係を構築できればコストダウンに繋がる。人を大事にすることや、組織内におけるコミュニケーションの厚みや温かさがあることによって、逆にコストが下がっていくということを忘れないでいただきたい。このように、時間外勤務の減少や休暇の取得が進むような職員文化の形成が次の目標なのかなと考えている。

会長：他に何かあるか。

(異議なし)

会長：それではこれより、この委員会を代表し、わたくしから水越総合政策部長に意見書をお渡ししたいと思う。

＝中川会長から水越総合政策部長に意見書を手交＝

事務局：中川会長から池田市行財政改革推進プランⅢ令和3年度の実施状況に関する意見書を頂戴した。皆様の意見を踏まえ、今後さらなる行財政改革の推進に努めてまいりたいと思う。今後も行財政改革の推進について忌憚のない意見をお願いできればと考えている。

### 3) 事務連絡

事務局から委員会の今後の予定について説明

### 4) 閉会

以上